



営農NEWS



秋冬どりキャベツの生育期における病害虫防除

キャベツの生育中には、アオムシやヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ウワバ類などチョウ目害虫による食害や、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などが発生します。これらの害虫対策として、生育の初中期を対象に、ベリマークSCやプレバソフロアブル5などの育苗期後半の灌注処理、ダントツ粒剤やジェイエース粒剤などの育苗期後半の株元散布または定植時の植穴処理などが行われており、薬剤によって残効が異なりますが、処理後2~4週間くらいの防除効果が期待できます。なお、IRAC分類コード：28(ジアミド系薬剤)では、コナガ抵抗性の圃場が確認されています。

しかし、定植前や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃から、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まり、発生に気づかずに防除が手遅れになってしまうと、幼虫の食害などによる著しい商品価値の低下や減収を招いてしまいます。

本年は梅雨明けが平年より8日遅れましたが、明けた後は連日高温の日が続いています。向こう1か月予報(8月8日発表)によると、「平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は高い確率60%」とされ、これからも平年より高い気温で推移するものと予想されており、害虫の発生には適する条件となりますので、被害発生に十分な注意が必要となります。

一方、生育中に発生する病害としては、黒腐病や黒斑細菌病、軟腐病、菌核病などがあります。現在のところ降雨は少ない状況ですが、今後連続した降雨や暴風雨、台風の襲来などがあると各種病害の発生してくる懸念がありますので、常に気象情報や作物を注意して観察し、予防または病害の発生初期における防除を徹底してください。

病害虫が発生した場合には、下記を参考に、早めに薬剤防除を行ってください。

表1 キャベツ害虫の本圃における主な防除薬剤 (令和元年8月13日現在)

薬剤名	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	タマナギンウワバ	コナガ	ハイマダラノメイガ	オオタバコガ	アザミウマ類	アブラムシ類	分類
アニキ乳剤	○		○	○ウワバ類	○	○	○			6
アクセルフロアブル	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○			22B
プレオフロアブル	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○			un
トルネードエースDF	○	○	○	○	○	○				22A
コテツフロアブル	○	○	○	○	○	○	○			13
ディアナSC	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○	○		5
ファルコンフロアブル	○	○	○	○	○	○	○			18
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○ウワバ類		○	○			28
グレーシア乳剤	○	○	○	○ウワバ類	○		○	○*		30
オリオン水和剤40	○	○		○					○	1A
コルト顆粒水和剤								○*	○	9B
モスピラン顆粒水溶剤	○				○			○	○	4A

注) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 キャベツ病害の主な防除薬剤 (令和元年8月13日現在)

薬剤名	黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	菌核病	株腐病	べと病	分類
カセット水和剤	○	○	○				24と31
カスミンボルドー	○	○	○				24とM1
バリダシン液剤5	○		○		○		U18
スターナ水和剤		○	○				31
Zボルドー	○	○	○			○	M1
セイビアーフロアブル20				○	○		12
シグナムWDG				○	○	○	7と11
ファンタジスタ顆粒水和剤				○			11
アフエットフロアブル				○	○		7
ロブラール水和剤				○	○		2
リゾレックス水和剤					○		14
ランマンフロアブル						○	21
ダコニール1000						○	M5
プロポーズ顆粒水和剤						○	40とM5

注) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040